

学会ニュース

2026.7.1
No.138

日本スポーツ産業学会 第35回大会開催について

第35回学会大会のスケジュールが下記のように予定されました。ご参加の程お願い申し上げます。

1. 会期: 2026年7月4日(土)～5日(日)
2. 会場: 中京大学 名古屋キャンパス(愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2)
3. プログラム(予定)
 - ・7月4日(土)

9:00	受付
10:00-12:00	一般研究発表
11:30-12:50	理事会
13:00-13:15	開会式
13:15-14:15	基調講演 「過去の教訓から未来のビジョンへーメガスポーツイベントの接続可能性とレガシーー」
14:15-14:30	特別講演Ⅰ 「スポーツ事業運営人材とアスリート」
15:00-16:20	シンポジウムⅠ 「eスポーツの産業学ー愛知・名古屋アジア大会を見据えてー」
16:30-18:00	アイデアコンペ
18:10-18:50	総会
19:00-20:30	懇親会
 - ・7月5日(日)

9:00	受付
9:30-12:00	一般研究発表
13:00-13:45	特別講演Ⅱ 「部活動改革のフロントラインー名古屋高等学校サッカー部のケース」
14:00-15:30	シンポジウムⅡ 「『スタジアム・アリーナ改革』の産業学ー次の10年を展望してー」
15:45-16:00	閉会式

もくじ

・第35回大会基調講演、特別講演、シンポジウム	2
・第35回大会一般研究発表スケジュール	3
・事務局より	6
・『スポーツ産業学研究』原稿募集	7

第35回大会

○基調講演

「過去の教訓から未来のビジョンへメガスポーツイベントの持続可能性とレガシー」

八木和弘氏(公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会競技委員会副事務総長)

【講演内容】

本発表は、過去のメガスポーツイベントの特徴と課題を整理するとともに、今後のメガスポーツイベントのあるべき姿について検討することを目的とする。特に、2026年愛知・名古屋アジア競技大会を事例に取り上げ、従来のオリンピックやワールドカップといった大会との比較を通じて、経済的・社会的・環境的な観点からその意義と展望を提示する。従来のメガイベントは、インフラ投資や観光需要、スポンサーシップなどの経済効果を強調する一方、施設維持費や短期的収益への偏重といった課題を抱えてきた。また、ボランティア育成や地域活性化といった社会的成果を生む一方で、環境負荷の増大が問題視されてきた。近年はこうした課題に対応するかたちで、SDGs・ESGを踏まえた持続可能性の重視、ICT活用による大会運営の高度化、障がい者スポーツとの統合やジェンダー平等の推進といったインクルーシブな施策、さらにSROI(社会的投資収益率)を活用した社会的価値評価の導入が進んでいる。これらの潮流を踏まえ、本発表では2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での成果を比較した上で、2026年愛知・名古屋アジア競技大会の見込まれる成果を提示する。具体的には、国際オリンピック委員会(IOC)とアジアオリンピック評議会(OCA)との対応の違い、選手村のレガシープラン、eスポーツ、国際スポーツ経営人材のナレッジシェア等である。さらに、全体総括として「未来のメガスポーツイベント像」も提示する。日本型メガイベントモデルの可能性、さらに日本スポーツ産業への新たな期待について発表をする予定である。

○特別講演 I

「スポーツ事業運営人材とアスリート」

吉屋拓之氏(スポーツ庁参事官 民間スポーツ担当)

【講演内容】

大学でスポーツ産業を学んだ学生がいわゆるスポーツ産業で働くとは限らない。ただし、いわゆるスポーツ産業以外の産業こそがスポーツを支えている。プロスポーツ興行はスポーツ産業の中心的位置づけにあるとの指摘もあるが、日本政策投資銀行が推計するスポーツGDPの中で、プロスポーツ興行の占める割

合は3%弱とごくわずかである。プロスポーツ興行については、それ自体の経済規模よりも、むしろ、集客力・影響力を通じた幅広い産業に対する波及効果を通じた経済社会効果こそが重要と考えられる。Jリーグの収入割合を見ても、チケット販売収入が17%程度なのに対して、スポンサー収入が5%である。スポーツを観戦する観客以上に、スポーツ事業を運営していないスポンサーが、商品の広告宣伝、組織の活性化等の観点から、スポーツを活用している様子がわかる。特に、焦点を当てたいのは、引退後のアスリートのキャリア。アスリートは、スポーツを通じて培った極めて高い能力があり、ある意味で「ギフト」だ。それだけに、いわゆる「社会人」として他の職員等と全く同じ働きを求めるよりも、それぞれの能力を活かした役割を期待した方が、アスリートを雇用した企業や団体のみならず、社会全体に大きな貢献ができる可能性が高い。アスリートもスポーツとは異なる場で活躍するため、デュアルキャリアなどの経験を積む必要があるが、同時に、受入側企業や団体もアスリートが力を発揮するための環境を整備する必要がある。スポーツ産業を学んだ方々には、是非、このような環境づくりに貢献いただきたい。

○シンポジウム I

「eスポーツの産業学－愛知・名古屋アジア競技大会を見据えて－」

【趣旨】

近年、スポーツは競技や娯楽としての役割にとどまらず、環境・社会・経済に関わる課題解決に資する社会的装置として期待されている。なかでもeスポーツは、2018年以降「次の巨大市場」として注目を集めてきた。一方で、広告依存、放映権収入の弱さ、ゲームIPへの依存など、収益モデルの未成熟性も指摘されている。こうしたなか、2026年に開催される愛知・名古屋アジア競技大会ではeスポーツが正式競技として実施される予定であり、国際的にもeスポーツをスポーツ産業や社会づくりに接続する動きが進んでいる。eスポーツは、単なるゲーム産業の一領域にとどまらず、地域振興、教育、人材育成、インクルージョン、国際交流など、多面的な価値を生み出す可能性を有している。本シンポジウムでは、eスポーツをめぐる産業的現実と学術的視点を交差させ、経済的価値と社会的価値の同時実現の可能性について検討する。まず、一般社団法人日本eスポーツ協会(JESU)事務局長の井澤氏より、eスポーツ産業の現状と課題について報告いただく。特に、スポンサーシップ、大会運営、収益モデ

ル、従来型スポーツとの比較を通じて、持続可能な経済的価値の構築を議論する。次に、大阪成蹊大学の鳥山先生より、eスポーツの社会的価値について報告いただく。デジタルスキルの育成、協働性の向上、多様な人々の参加機会の創出、地域振興、健康・福祉領域への応用などの可能性に加え、依存症や青少年への影響といった課題も含めて検討する。さらに、愛知・名古屋eスポーツ活性化推進委員会事務局長の水野氏より、愛知・名古屋アジア競技大会に向けた取り組みと日本の挑戦について報告いただく。名古屋をショーケースとし、経済的価値と社会的価値を両立させる「日本型eスポーツモデル」の可能性を考える。その後のパネルディスカッションでは、早稲田大学の高橋先生を指定論者に迎え、実務者と研究者の視点から議論を深める。主な論点は、①eスポーツにおける国内と国外の動向、②eスポーツの収益モデルをいかに確立するか、③eスポーツが生み出している社会的価値とは何か、④経済的価値と社会的価値を同時に実現する持続可能な産業モデルをどのように構築するか、である。

【登壇者】

井澤俊樹(一般社団法人日本eスポーツ協会 事務局長)

鳥山 稔(大阪成蹊大学経営学部 講師)

水野岳彦(愛知・名古屋eスポーツ活性化推進委員会事務局長)

【指定論者】

高橋義雄(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)

【モデレーター】

塚本拓也(中京大学スポーツ科学部 准教授/実行委員会副委員長)

○シンポジウムⅡ

「スタジアム・アリーナ改革」の産業学：次の10年を展望して」

【主旨】

本シンポジウムでは、スポーツの成長産業化を牽引してきた「スタジアム・アリーナ改革」の歩みを振り返る。コストセンターからプロフィットセンターへの転換を掲げ、2025年度までに多世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナが全国で20以上誕生した。一方で、整備コストの増大や住民合意形成をめぐる対立など、地域社会との摩擦も表面化した。「スポーツコンプレックス」という新たな概念の台頭も含め、この一連の改革は何をもたらし、どのような論点を残したのかを整理する。次の10年に向けて、どのような研究とエビデンスを蓄積すべきか、そして次の改革の方向性をいかに描くべきかについて議論する。

【パネリスト】

土屋光輝(公認会計士)

吉竹宣也(三井不動産株式会社)

堀江隆治(株式会社アイシン／シーホース三河株式会社)

舟橋弘晃(中京大学スポーツ科学部 教授)

【モデレーター】

上林 功(日本女子体育大学体育学部 教授)

○特別講演Ⅱ

「部活動改革のフロントライン：名古屋高等学校サッカー部のケース」

山田武久(名古屋高等学校 教員)

【講演内容】

学校運動部活動をめぐっては、主に公立中学校を対象として、地域との連携や運営体制の見直しが進められている。本講演は、名古屋高等学校サッカー部の事例報告として、一般社団法人SV名古屋の設立を含む取り組みを紹介する。同法人の設立を通じて、地域に開かれた学校としての位置づけや、地域コミュニティの一部としての存在価値がどのように形成されてきたのかを整理する。あわせて、運営体制の整備によるガバナンス強化が競技力向上にどのように結びついたのかについて報告する。

第35回大会一般研究発表スケジュール

【7月4日(土)】

○会場:1号館131教室 9:30~10:30

<発表1>

[座長:井澤 悠樹(京都橘大学)]

・1-1

「応援対象選手の移籍が元所属チームへの再観戦意図に与える影響」

定盛 匡哉(中京大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士2年)

・1-2

「Webスポーツ報道記事において読者が記事への好感度を高める要因」

木村 俊太(株式会社燕来舎代表取締役・スポーツライター)

・1-3

「地域密着型スポーツチームの観戦体験が地域行動に及ぼす影響:先行研究レビューとラグビーリーグワンDiv.3を対象とした研究」

奥田 勘太郎(山口大学大学院人間社会科学研究科)

○会場:1号館131教室 10:45~11:45

<発表2>

[座長:塚本 哲也(中京大学)]

・2-1

「資格制度が想定する知識と指導実践の構造的乖離ーピラティス指導者の経験からー」

山口 由紀(早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 博士後期課程2年)

・2-2

「メドックマラソンを活用したウェルネスツーリズムの提案」

遠藤 真弓(早稲田大学大学院スポーツ科学研究科1年)

・2-3

「中国野球における青少年育成とキャリア志向に関する研究ーMLB ディベロップメントセンターと日本への野球体験ツアーに見られる二重構造ー」

呉 清漣(鹿屋体育大学 大学院体育学研究科スポーツ国際開発学共同専攻(修士2年))

○会場:1号館132教室 10:45~11:45

<発表3>

[座長:藤本 倫史(大阪経済大学)]

・3-1

「バリアフリーマラソンを支えるボランティアの継続性ー伊勢志摩バリアフリーセンターの取り組みか

らー」

西尾 建(山口大学)

・3-3

「運動部活動地域展開の正当性獲得を規定する要因の検討」

古川 拓也(大阪成蹊大学)

○会場:1号館133教室 9:30~10:30

<発表4>

[座長:川島 啓(釧路公立大学)]

・4-1

「大学生が実施するスポーツ観戦者サービスの経済的価値評価ー大分トリニータにおけるプレゲームイベントを事例としてー」

竹田 隆行(日本文理大学)

・4-2

「仮想評価法を用いた総合型地域スポーツクラブの社会的価値推計ー会員と地域住民の視点からー」

林 悠太(摂南大学)

・4-3「サッカースタジアム建設の政治経済学

ークラブによる民間資金調達の役割に関する理論分析ー」

萩原 史朗(名古屋学院大学経済学部)

○会場:1号館133教室 10:45~11:45

<発表5>

[座長:上野直彦(九州産業大学)]

・5-1

「ホームタウン外に居住するファンの地域愛着と寄付意向ー観戦満足度およびファンレベルとの関係に注目してー」

井澤 悠樹(京都橘大学)

・5-2

「スター選手およびリーグ主管イベントがホームゲームの観戦者数に及ぼす影響ーBリーグオールスターゲームの事例ー」

荻堂 李々花(中京大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程2年)

・5-3

「eスポーツにおけるゲーム情報及び健康情報収集基盤の構築ー日本及び韓国でのシステムの検証ー」

平松 耀(慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 3年)

【7月5日(日)】

○会場:1号館131教室 9:30～10:30

<発表6>

[座長:竹田 隆行(日本文理大学)]

・6-1「プロ野球ビジネスと野球普及は両立しえるのか?—「ドバイ野球」の事例から—」

石原 豊一(鹿屋体育大学)

・6-2

「第二次世界大戦下のフランスサッカー」

井上 俊也(大妻女子大学)

・6-3

「台湾の企業スポーツ:社会人野球における準プロリーグ機能—WBSC プレミア12 での優勝を生んだ国策としての企業スポーツ—」

吉江 剛史(早稲田大学 スポーツビジネス研究所 招聘研究員)

○会場:1号館131教室 10:45～11:45

<発表7>

[座長:井上 俊也(大妻女子大学)]

・7-1

「女性スポーツクライミング選手の健康回復を支えた支援プロセスの質的検討」

高島 三幸(早稲田大学スポーツ科学研究センター)

・7-2

「大学生サッカー部員におけるフェアプレー精神とライフスキルの関連性—大学スポーツ組織における人材育成への示唆—」

亀谷 涼(流通科学大学)

○会場:1号館131教室 9:30～10:30

<発表8>

[座長:林 悠太(摂南大学)]

・8-1

「米国の規制済み予測市場における情報効率性の優位性に関する実証研究—Kalshi とDraftKings の比較分析及び日本スポーツ産業・マーケット健全性への示唆—」

上野 直彦(九州産業大学)

・8-2

「SSAを用いたスポーツの産業構造の日欧比較」

川島 啓(釧路公立大学)

・8-3

「日本におけるスポーツ産業の定義と測定枠組みの再構築」

庄子 博人(同志社大学)

○会場:1号館132教室 10:45～11:45

<発表9>

[座長:庄子 博人(同志社大学)]

・9-1

「非競技型気功大会における参加者の身体経験の特徴」

龍野 頼子(早稲田大学スポーツ科学学術院)

・9-2

「合気道における「わぎ言語」の使用形態—指導現場での使用方法—」

高木 清次(早稲田大学大学院スポーツ科学研究科)

・9-3

「実業団女子長距離アスリートの身体調整はいかに組み立てられるか—練習参加を基準とする判断に着目して—」

今村 聖子(ナチュラルケア水道橋外来センター)

○会場:1号館133教室 9:30～10:30

<発表10>

[座長:古川拓也(大阪成蹊大学)]

・10-1

「国内におけるスポーツホスピタリティの課題・効果・展望の考察」

藤本 倫史(大阪経済大学)

・10-2

「アメリカNCAAにおける転学システムとエージェント法制」

束原文郎(帝京大学)

・10-3

「箱根駅伝による「大学ブランド」の形成と大学経営への影響—メディアインパクトと強豪校の投資対効果に関する考察—」

比嘉 正樹(早稲田大学スポーツビジネス研究所)

○会場:1号館133教室 10:45～11:45

<発表11>

[座長:束原文郎(帝京大学)]

・11-1

「服薬記録アプリCueNote における初期導入改善の実証的検討」

ビョン ジェオ(早稲田大学スポーツ科学研究科)

・11-2

「老健入所高齢者におけるロボットセラピー効果の個性」

畑 康彦(早稲田大学大学院スポーツ科学研究科)

・11-3

「保険診療外領域における理学療法士の就業実態」

大武 聖(東京保健医療専門職大学)

事務局より

〈シクミネットについて〉

2021年4月より導入したシクミネット(<https://shikuminet.com/>)の継続にあたりましては、多大なるご協力を賜り心より御礼申し上げます。

正会員、学生会員の皆様には以下の内容について当該システム上の「マイページ」よりお手続きをお願いします。

- ・登録情報の編集
- ・年会費の支払い
- ・当学会主催イベントへの申し込み、入金

尚、年会費の支払い方法につきましては変更可能ですので、ご都合の良いお支払方法をご選択ください。決済方法はいつでも変更可能ですが、マイページ「ご請求・お支払い情報」で「決済中」となっているご請求がある場合は、このご請求の決済完了後から、変更可能となります。

クレジットカード決済をご選択されている場合、マイページの「ご請求・お支払い情報」ページ中、「お支払い履歴」一覧の一番右にあります「領収書」より、領収書の発行が可能です。こちらをご活用ください。但しこの場合、領収書の発行者が「しゅくみねっと株式会社」になります。学会発行の領収書が必要な場合は事務局までご連絡ください。

まだログインお手続きがお済でない会員の皆様は、早めのお手続きをお願いいたします。
本学会の銀行またはゆうちょ口座へ直接お振込みをご希望の方は、事務局までご一報ください。

その他ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

- ・システムに関して:シクミネット info-jssi10023@shukuminet.com
- ・その他:日本スポーツ産業学会事務局 jssi@spo-sun.gr.jp

〈学会事務局〉

現在事務局はリモートワーク中ですのでお問い合わせ等ございましたら事務局宛(jssi@spo-sun.gr.jp)にメールでご連絡くださいますようお願いいたします。

〈新会員紹介のお願い〉

日本スポーツ産業学会の会員数は、現在、個人会員が約700名、賛助会員が14団体、法人会員が9団体です。
本学会は、設立理念にもありますように、産業界、学界、官界と幅広い分野から会員を募り学会活動を進めています。
学会の趣旨に賛同し、ともに研究を進める仲間を募っています。ご紹介頂ければ幸いです。

- ・個人会員:学会HPご入会のご案内 <https://jssi.shikuminet.jp/>
「会員登録申請」よりお手続き願います。

- ・法人会員・賛助会員:事務局(jssi@spo-sun.gr.jp)までご連絡願います。

「スポーツ産業学研究」原稿募集

「スポーツ産業学研究」の原稿を募集します。奮って寄稿されるようご案内致します。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 原稿の種類 | フォーラム、原著論文(総合研究、理論研究、事例研究、調査研究)
研究ノート、書評、アゴラなど。 |
| 2. 原稿の採否 | 編集委員会により投稿分類の妥当性および査読の可否を判定した後に
査読委員が選ばれ査読が依頼される。その査読結果をもとに編集委員会は
原稿の採否を決定し、その結果を投稿者に通知する。 |
| 3. 提出する原稿 | メールの添付ファイル(ワードかPDF、図表はエクセル可・PPT可)で送付のこと。 |
| 4. 論文の送付先 | 〒202-0021 東京都西東京市東伏見2丁目7番5号
早稲田大学75-2 体育教室棟301号室
早稲田大学スポーツビジネス研究所内
日本スポーツ産業学会編集委員会 |
| 5. 執筆方法 | 「スポーツ産業学研究」投稿規定(学会ホームページ)を参照。 |

「学会ニュースNo138」

発行日:2026年7月1日

発行者:日本スポーツ産業学会理事長 藤沢 久美

編集者:児玉ゆう子, 中村 好男, 元 晶煜, 岡 浩一朗

小木曾 湧, 梶川 裕矢, 田中 克昌, 萩原 悟一

藤田 康範, 藤本 淳也, 舟橋 弘晃

金子佐知子(事務局)

事務局:〒202-0021

東京都西東京市東伏見2丁目7番5号

早稲田大学75-2 体育教室棟301号室

早稲田大学スポーツビジネス研究所内

日本スポーツ産業学会事務局

TEL:042-461-1241

E-mail:jssi@spo-sun.gr.jp

<https://spo-sun.gr.jp>